

## 豊中市の社会教育のあり方について（素案）

### 1. 市社会教育の現状と課題

#### （経過と現状）

- (1) 豊中市では戦後の民主教育の創成期から社会教育が盛んで、現在まで活発な活動が見受けられる。特に公民分館活動を始めとする地域活動など、先人たちが築き上げてきた歴史がある。
- (2) 公民分館活動などの社会教育をきっかけとして有為な人材が地域活動を支えてきた。
- (3) 担い手の多くは、楽しんで活動している。使命感もあるが、活動すること自体に生きがいややりがいを感じている。日々新しい喜びがあり、忙しいとは思わないケースも多い。
- (4) どの活動も担い手の後継者不足を感じている。
- (5) 人生100年時代において、健康寿命の大切さがうたわれ、働き続ける高齢者が増えている。
- (6) 時代とともに社会課題が変化しているように、家族のあり方、子どもたちの行動様式も変化している。
- (7) 一方で多様性教育が進み、人生に自由な選択肢が増えている側面がある。
- (8) 地域の大人が地域の子どもに接する機会や、接すること自体が難しくなっている。
- (9) 核家族化などの影響により、地域の祭りなど通過儀礼に根差した地域への関わり等が10代後半から20代後半にかけて薄くなっている。

#### （課題）

- (1) 現在では、PTA活動への否定的な意見に代表されるように、地域活動への参加に消極的な人が増え、人権教育推進などの社会教育活動に取り組むきっかけとなる活動への参加者、さらには地域活動そのものの後継者が減少している。
- (2) 少子高齢化が進む中、地域の祭り、伝統行事等において親子で参加し、地域への愛着を育む機会が減ってきている。
- (3) 共働き家庭の増加、定年延長など、地域活動を行う時間的経済的ゆとりのない家庭が増えている。
- (4) 戦後すぐの貧困の中でも活発に取り組まれた社会教育活動と、現在の地域活動への参加者の減少との違いは何か。忙しさ以外の参加意識の低下に対する対策が必要ではないか。
- (5) 生きづらさを感じる人が顕在化し、学校や職場、家庭以外の地域の受け皿が必要になっている。

#### （方向性）

- (1) 地域参画の根幹を支える人材育成や、地域活動への参画のきっかけとして

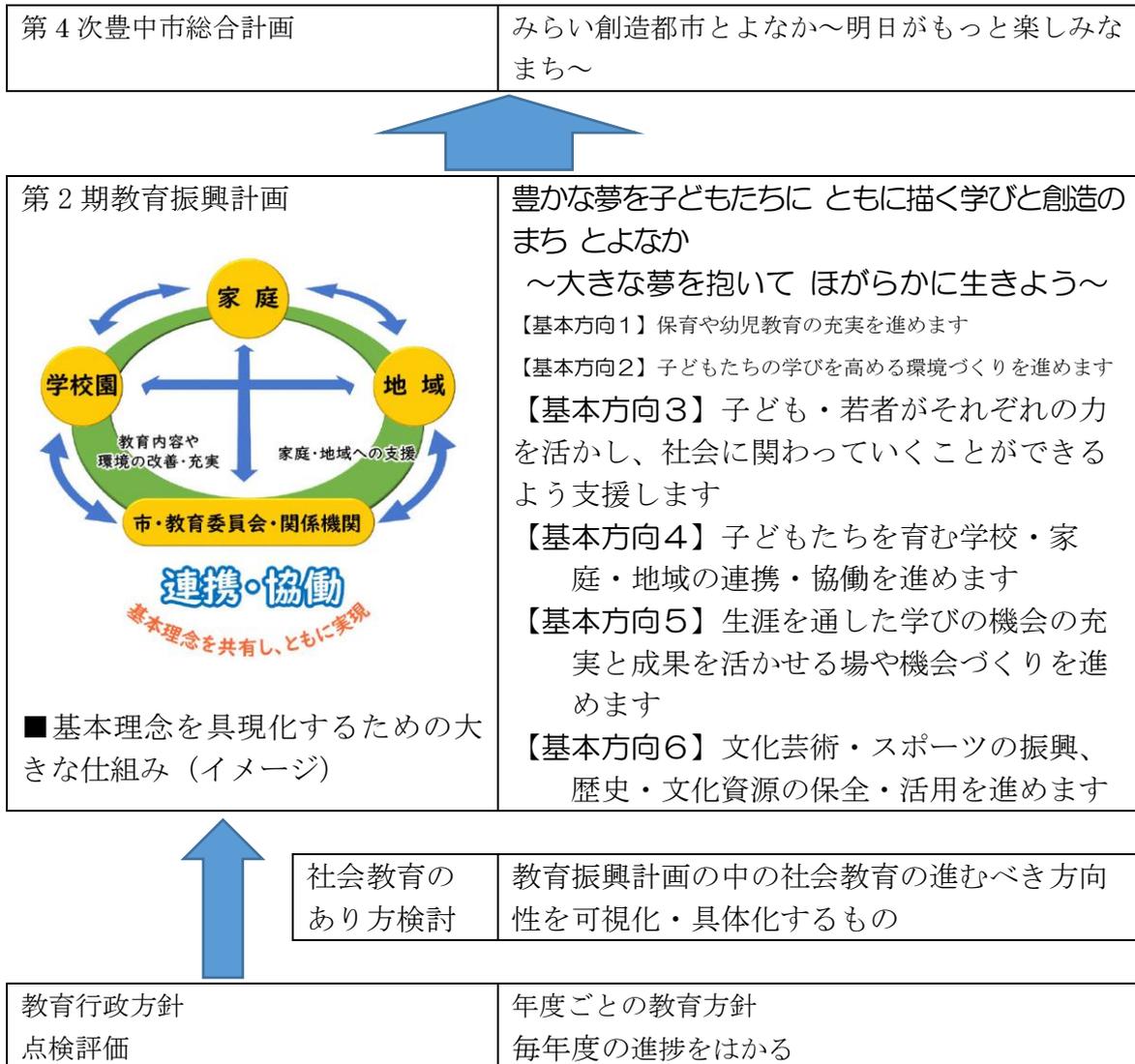
- の社会教育の意義は引き続き重要である。
- (2) 生まれた地域に戻り、地域のために貢献したいと感じる思いを育む。
  - (3) 生まれてきたときから大人になるまでの継続的な視点を大事にする。
  - (4) 個々に取り組まれてきた活動を、点と点から連携することで豊中市という地域社会全体に還元する。
  - (5) 個々の実践からの学びの共有、活動の視野を広げる。
  - (6) 個別で取り組まれてきた活動を元に、市全体としての社会教育のあり方を考える必要がある。

(まとめ)

- (1) 社会教育とは、利己（自分のため）の幸福追求であるが、結果的に利他（人のため）につながる。逆に、利他（人のため）の活動が、利己の幸福につながる。
- (2) 実践してきた社会教育の良い点を残しつつ、さらに今の時代に見合ったより良い地域にしていくために、点と点の活動を結び、新しい「豊中の社会教育のあり方」を今ここで考える。
- (3) 幅広い社会教育という概念の中でも、教育行政が行っている社会教育を主たる目的とする事業を中心に、これまでの経過と現状を俯瞰し、課題を明らかにするとともに、これからの豊中市の社会教育のあり方と方向性を検討していく。

## 2. 社会教育のあり方をまとめるにあたって

社会教育のあり方を検討するにあたっては、それぞれの社会教育行政機関が取り組んでいる行政課題・めざすべき目標が豊中市の社会教育全体の視点から見たとき、どのような役割を果たし、なにをめざしているかを明らかにするとともに、この検討結果が総合計画や教育振興計画の具体化に寄与するものとなるよう、以下のように整理する。



### 3. 本市社会教育のめざすべき方向性

#### ■基本コンセプト

キャッチフレーズ（案） 【資料2 参照】

案1 人づくり地域づくり ～つながり、暮らしを豊かに

案2 ひとをつくる、地域をつくる、第一歩

案3 人と人とのつながりで人の輪ができ、和になり、循環（まわ）る

- ・ 社会教育とは人づくりであり、地域づくりの根幹を支える人材育成である。
- ・ 個人の幸福の追求が地域満足度の上昇への道筋となる。
- ・ 学校教育と社会教育は車の両輪であり「子どもを育てる」学校教育と連携して「家庭教育・社会教育」を進め、子どもから大人まで途切れのない地域学習を構築していく。
- ・ 知と人をつなげる。人と人、地域や組織がつながる。過去と今、そして未来をつなぐ。つながることで新しい可能性をひらき、暮らしをより豊かにする。
- ・ 学校教育と社会教育の道しるべとなって人材育成に取り組む。

#### ■方針

- (1) 学校教育と連携を図り、子どもを育てる保護者・子どもを見守る地域の学びを通して、学びの循環を創出する。
- (2) 地域への循環を生む生涯を通じた途切れのない学びと活動の場の提供。
- (3) 個人の生涯学習から地域社会への参画への流れを生むアプローチ
- (4) 公民館、図書館、郷土資料館等の社会教育行政機関が学びの機会を提供する。
- (5) 高校連携・大学連携により、社会に出る前から地域活動の循環の輪（学び→地域への参画→さらに学びへと繰り返すこと）に加わる機会を提供する。
- (6) 地域コミュニティ、女性政策、障害福祉など各分野の行政機関と連携を図り、新たな行政諸課題についても社会教育団体や施設などの資源を活用して解決に向けた取組みを展開していく。
- (7) 市民自らの学びの支援・充実を図る。

### 4. めざすべき方向性実現のための本市社会教育部門、企業、教育機関、NPO、社会教育団体などに期待される役割、取組み

（教育委員会社会教育部門）

○社会教育課の役割

- ・ 社会教育のコーディネーターとして、情報の集約と拡散を行う。
- ・ 市民の学びごと相談の窓口として関係機関につないでいく。

- ・新たな課題について、社会教育関係機関等と協働して事業を展開する。
- ・社会教育主事を配置し、社会教育をコーディネートしていく。
- =★学びのトビラ（入口・ゲート）になる⇒ま（学）ナビゲートします。
- =★学びをナビゲーション⇒ま（学）ナビゲーションします（ゴールはない）

#### ○図書館の役割

- ・図書館活動全般を通じて教育と文化の向上に貢献し、人権を尊重するまちづくりをめざすとともに多文化共生社会の確立に貢献する。
- ・誰もが資料や情報にアクセスできる環境やメディアリテラシーの向上にむけた環境を整え、情報格差を解消し、生涯を通じた学びを支援する。
- ・子どもから大人まで、また高齢者や障害者等、すべての市民がより豊かで潤いのある文化的な生活を営むため、また日常生活や仕事における様々な課題を解決するために必要な情報や知識、場を提供する。
- ・地域・市民との協働を進めるとともに、地域の活動拠点や居場所として、コミュニティの活性化に努める。
- ・行政機関に対して適切な情報支援を行い、行政の政策立案等を側面からサポートすることにより市民生活の向上に努める。
- ・他の図書館や関連機関とも連携・協力し、より高度で幅広い市民ニーズに対応できるよう努める。
- ・図書館協議会や地域市民の参加や協力を得ながら「豊中市市民公益活動推進条例」等を踏まえて、より魅力的な図書館の運営をめざす。

#### ○公民館の役割

- ・生涯学習の場として、地域団体、学校、各行政機関等と連携しながら、現代的課題や生活課題の解決、地域の魅力を発信する公民館講座を実施する。
- ・公民分館活動の支援、地域の人材のマッチング、地域と連携した公民館事業等の実施を通じ、住民が互いに学び合い協力し合う地域づくりに貢献する。
- ・様々な学習意欲をもった市民が利用しやすいよう設備等を整備し施設を提供することで、地域住民の自主的な生涯学習活動を支援する。
- ・公民館登録グループ継続的学習活動の機会を提供することで、学習活動の成果を地域に還元し、学びの循環をつくる。

#### ○郷土資料館の役割

- ・市内の歴史・文化財を調査研究し、発信する。
- ・誰もが親しみ、楽しみ、学べる場を提供し、郷土への愛着を育む。
- ・学校と積極的に連携し、次世代の子ども達へ継承していく。

#### ○青少年交流文化館いぶきの役割

- ・青少年健全育成を通して、学校・家庭以外の多様な居場所・相談窓口を提供する。

- ・不登校など今日的課題にも対応する青少年施設として、社会生活にさまざまな困難を抱える青少年への支援を進める。
- ・学校教育等と連携を図り、青少年の自主性を助長するとともに、社会的自立を促す取組みを進める。
- ・青少年育成団体の支援

○学び育ち支援課の役割

- ・地域と学校の連携により、様々な学習、体験、交流の機会をつくり、次世代を担う子どもたち（児童、生徒）を心豊かに育む、学校を拠点とした教育コミュニティづくりを進める。
- ・地域と学校を結び、生涯を通じた途切れのない学びの循環の一翼を担う。

(行政機関)

障害福祉や女性政策、コミュニティ政策など、それぞれの課題に取り組む所管部局は、その事業の場として社会教育施設を活用し、講師の派遣や協働事業など、密に連携しながら事業に取り組む。

(地域団体)

公民分館をはじめとする地域活動団体、市民団体、グループ等

(企業)

(教育機関)

(NPO)

\*\*\*\*\*

《参考資料》 ヒアリング結果一覧（予定含む）

(行政機関)

- ・ 図書館
- ・ 公民館
- ・ 郷土資料館
- ・ 学び育ち支援課
- ・ 青少年交流文化館いぶき

(社会教育団体ほか市民)

- ・ 青少年団体連絡協議会（ボーイスカウト豊中協議会、ガールスカウト豊中地区協議会、NPO 法人豊中市青少年野外活動協会、豊中市こども会連合会等）
- ・ NPO 法人北摂こども文化協会
- ・ 図書館ボランティアグループ（おはなしポケット）
- ・ 公民分館長（東泉丘）
- ・ 学校支援コーディネーター（箕輪）
- ・ 豊中市人権教育推進委員協議会
- ・ 公民館登録グループ（豊中二胡倶楽部）

（教育期間）

- ・ 大阪音楽大学
- ・ 大阪大学

（企業）

## “本市めざすべき社会教育”の 基本コンセプトをあらわすキャッチフレーズ（案）

- 人づくり地域づくり ～つながり、暮らしを豊かに～
- ひとをつくる、地域をつくる、第一歩
- 人と人とのつながりで人の輪ができ、和になり、循環（まわ）る

### 【その他】

- あれもこれも！社会教育
- みんなで広げよう社会教育の輪
- 増やして、つなげて、盛り上げる
- おとなも子どもも教え合い・学び合い・育ち合い
- 豊かな社会は豊かな教育から
- 居場所作りの担い手にとっても、そこが居場所になる
- みんなが幸せな社会教育
- ビジネスライクではなく、地域（コミュニティ）教育ライク・生涯学習ライク・ボランティアライク・社会教育ライク⇒⇒社会教育ラブ
- 土壌を作る、種を蒔いて花を咲かせてもらう
- 学びのトビラ（入口・ゲート）になる⇒ま（学）ナビゲートします
- 学びをナビゲーション⇒ま（学）ナビゲーションします（ゴールはない）



